

アホウドリの概要

ミズナギドリ目アホウドリ科

アホウドリ(学名 *Diomedea albatrus*)

絶滅危惧 類

(環境省レッドリスト 2012)



1. 分布及び個体数

- ・ 繁殖地は伊豆諸島鳥島と尖閣諸島のみ
- ・ 1949 年の調査で絶滅宣言が出されたが、1951 年に約 10 羽が鳥島で再発見された。
- ・ 2014 年末現在、鳥島生まれの個体群は 3,900 羽程度と推定されている。

2. 形態及び生物学的特性

- ・ 成鳥は胴部と翼の基部が白色、頭部は淡黄色。翼の先端部と尾の先端が黒褐色。
- ・ 成熟個体で全長が 84 ~ 94cm。
- ・ 繁殖活動は 10 月 ~ 翌年 5 月。
- ・ 5 歳頃から繁殖に参加し、巣立った場所に戻ってきて繁殖を行う傾向が強い。

3. 減少要因

- ・ 1890 ~ 1900 年代に羽毛採取のため大量に捕獲され、1949 年の調査では絶滅した可能性がある」と報告された。

4. 保護の対策

- ・ 昭和 56 年から繁殖成功率を高めるため、植栽や土留工などによる繁殖地の環境改善事業を開始。
- ・ 平成 5 年、種の保存法に基づく「国内希少野生動植物種」に指定。
- ・ 同年、保護増殖事業計画を策定し、繁殖地の環境整備事業(燕崎)や、新たな繁殖地の形成事業(初寝崎)を行った。
- ・ 平成 13 年度より米国と共同で人工衛星による行動追跡を行っている。
- ・ 鳥島は活火山であり、噴火による繁殖地の消滅が懸念されるため、平成 19 年度より小笠原群島賀島で新繁殖地形成事業を開始。平成 20 ~ 24 年に計 5 回、伊豆諸島鳥島からヒナをヘリコプターで賀島へ 70 羽移送。山階鳥類研究所の職員が賀島に滞在し、ヒナの人工給餌を実施し、計 69 羽のヒナが巣立った。

2011 年 2 月には初めて巣立ったヒナの賀島への帰還が確認された。

2014 年 5 月には媒島で初めてヒナが確認された。小笠原諸島での繁殖の確認は戦後初。

2016 年 1 月には賀島で初めてヒナの誕生が確認され、5 月にはヒナの巣立ちが確認された。

2016 年 5 月には嫁島で初めてヒナが確認された。